

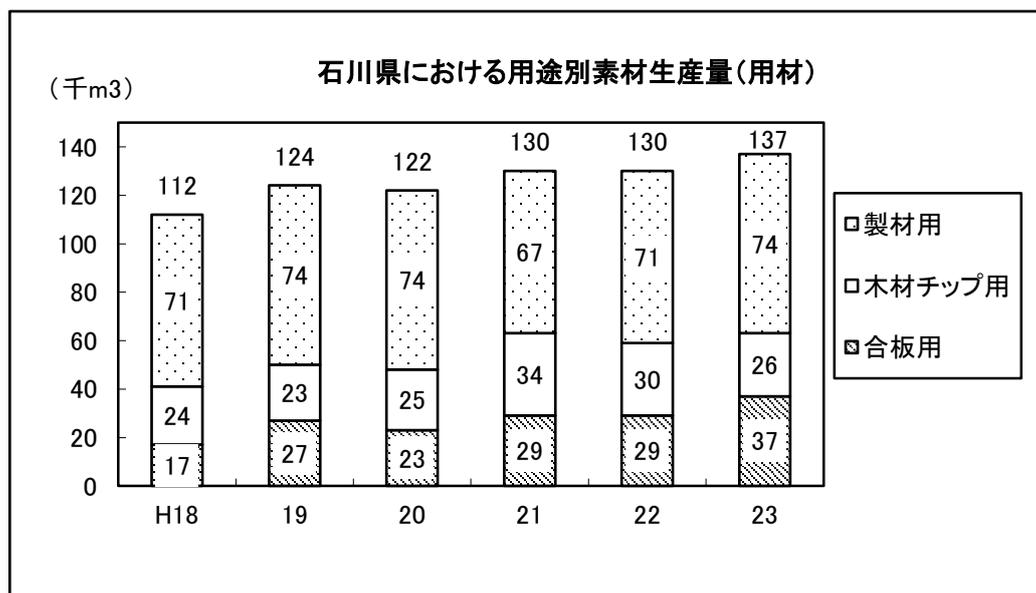
石川県における木材の加工流通の概要

1 木材需給の現況

(1) 素材(丸太)

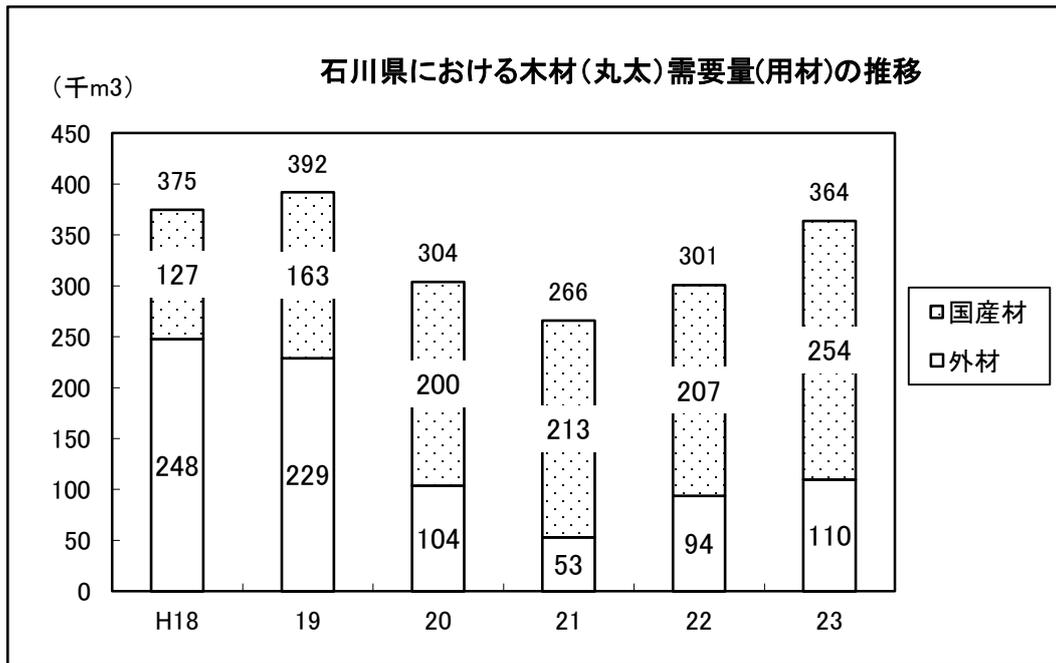
○ 供給面では製材用・合板用を中心として素材生産量が増加傾向

平成 23 年次の県内素材生産量は 137 千 m³ (対前年 105.4%) であった。
用途別では、製材用が 74 千 m³ (対前年 104.2%)、合板用が 37 千 m³ (対前年 127.6%)、チップ用が 26 千 m³ (対前年 86.7%) となった。



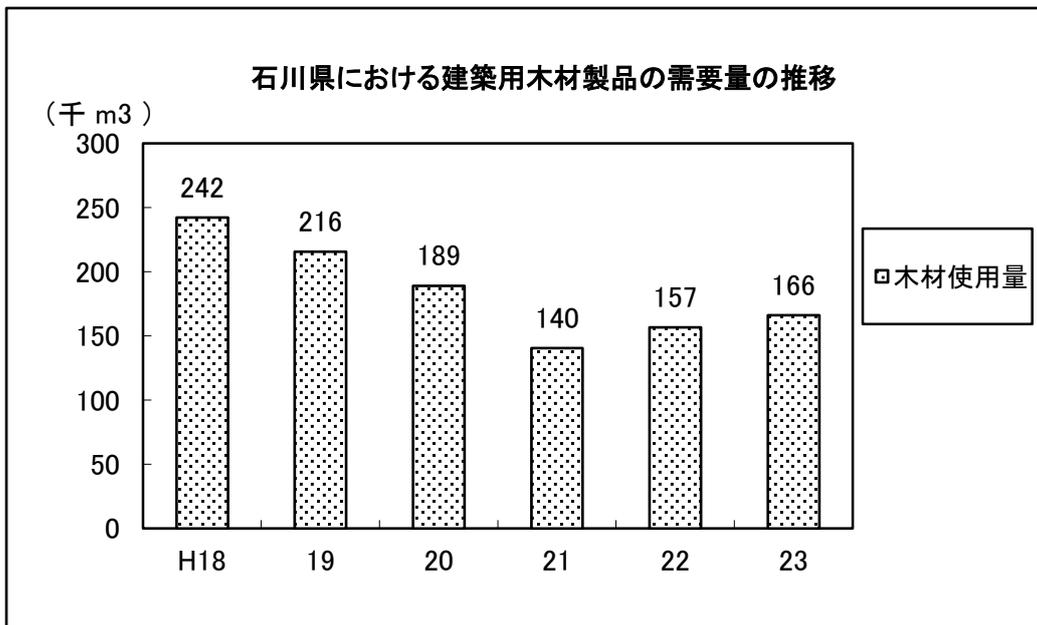
○ 需要面では合板工場における増産により大幅な増加

平成 23 年次の県内木材(丸太)需要量は、東日本大震災により東北地方太平洋側の合板工場が壊滅的な被害を受け、他の地域の合板工場において仮設住宅の建設や復旧復興に向けた合板の安定供給への要請が高まる中、本県の合板工場においても増産が図られた結果、合計で 364 千 m³ (対前年 120.9%) となった。内訳は、国産材が 254 千 m³ (対前年 122.7%)、外材が 110 千 m³ (対前年 117.0%) であり、国産材の割合は、69.8% (対前年 1.0 ポイント増) となった。



(2) 製品

平成 23 年次の県内建築物着工床面積は木造 629 千 m²(対前年比 98.2%)、非木造 678 千 m²(対前年比 127.8%)であったことから、建築用木材製品の需要量(推計)は 166 千 m³(対前年 105.7%)となった。



【推計方法】 木造：着工床面積(m²)×0.180(m³/m²)

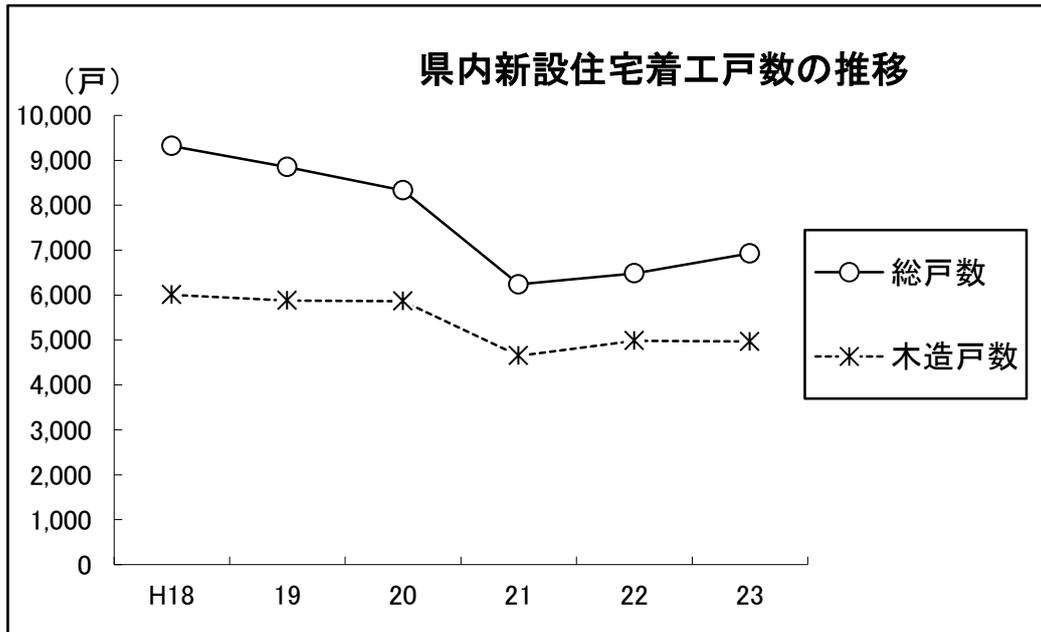
非木造：着工床面積(m²)×0.078(m³/m²)

(3) 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数が増加

平成 23 年次の県内新設住宅着工数 6,927 戸(対前年 106.8%)のうち木造住宅は 4,965 戸(対前年 99.7%)となった。新設住宅着工数の木造率は 71.7%(対前年 5.1 ポイント減)であった。

着工新設住宅の総床面積は 683 千 m²(対前年 100.9%)で、1 戸当たりの平均床面積は 98.6 m²(対前年 94.4%)であった。



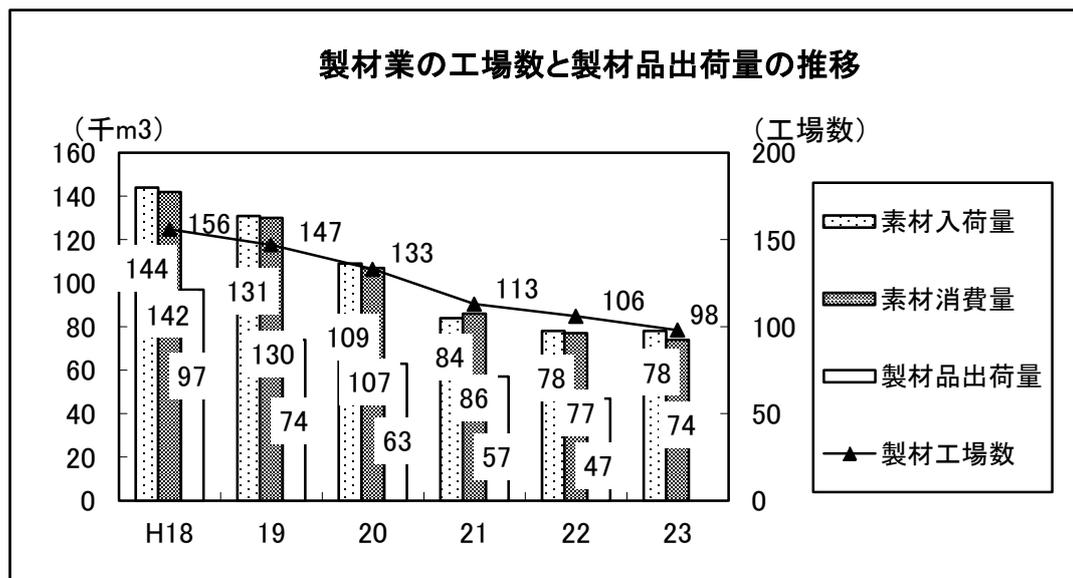
2 木材加工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数が減少

平成 23 年次の県内製材工場数は 98 工場(対前年 8 工場減)、従業者数は 282 人(対前年 32 人減)となった。素材入荷量は 78 千 m^3 (対前年 100.0%)であり、内訳は国産材 58 千 m^3 (対前年 105.5%)、外材 20 千 m^3 (対前年 87.0%)であった。素材消費量はそれぞれ 74 千 m^3 (対前年 96.1%)であった。

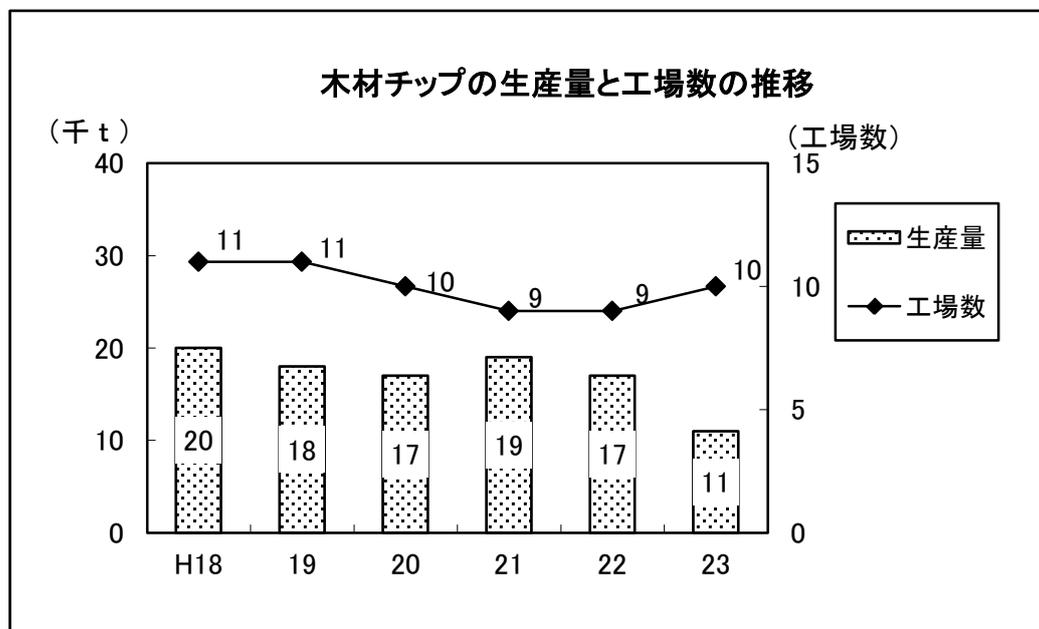
また、動力の総出力数は、8,835kW(前年比 99.5%)であり、1 工場当たりの平均出力数は 90.2kW であった。



(2) 木材チップ工業

○ 生産量が減少

平成 23 年次の県内木材チップ生産量は、11 千 t (対前年 64.7%) となった。原材料入手区分別では、工場残材が 4 千 t (対前年 66.7%)、素材が 7 千 t (対前年 63.6%) となった。工場数は 10 工場 (対前年比 1 工場増) であった。



※合板加工業については、1 社のみであるため記載を省略

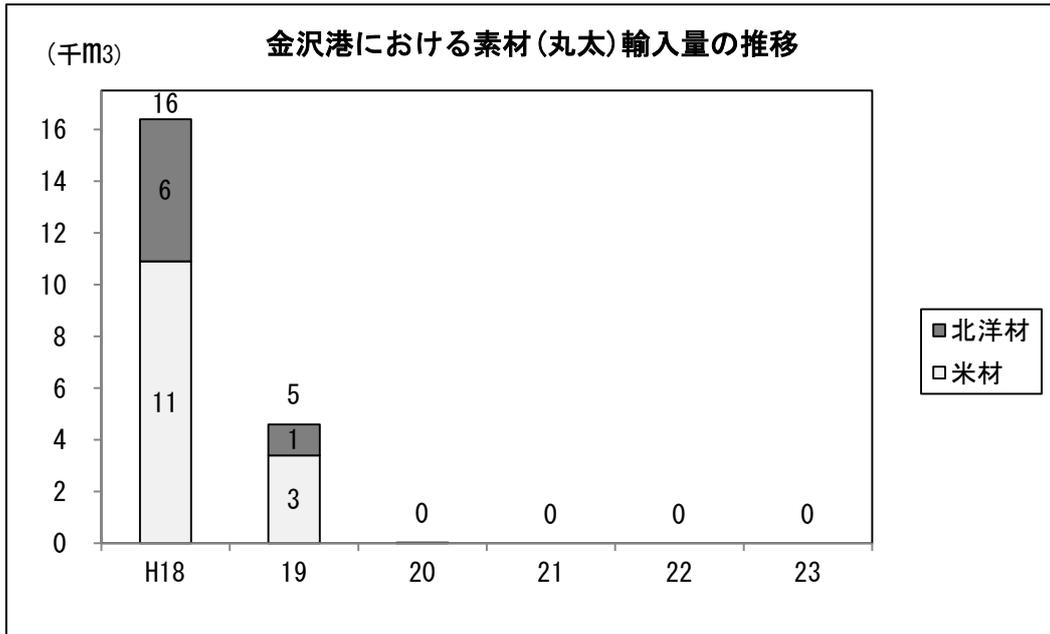
3 木材輸入の動向

(1) 素材 (丸太)

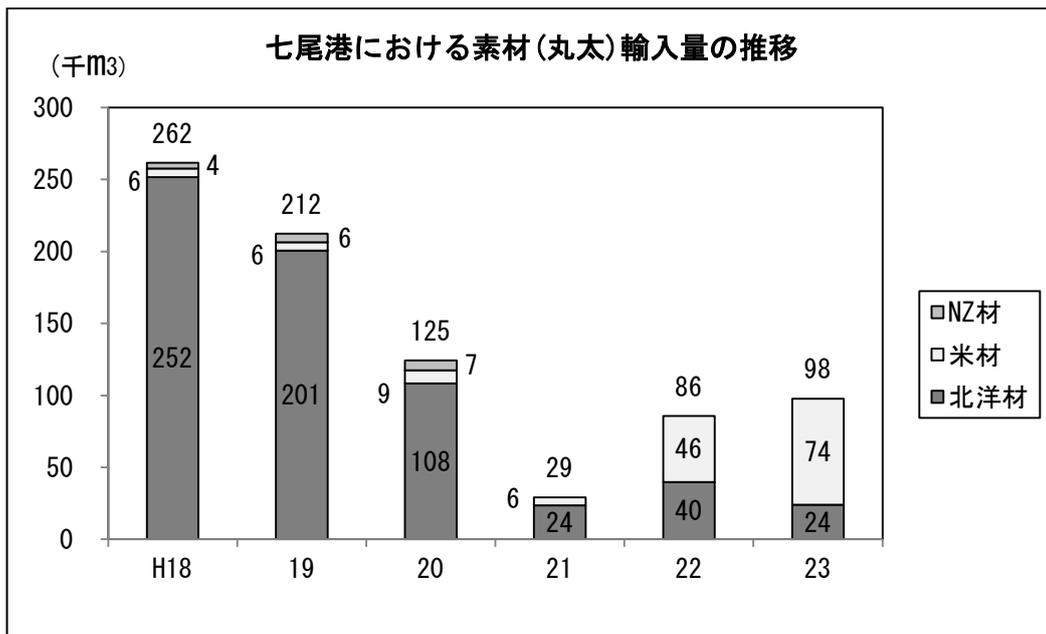
○ 輸入量が増加

平成 23 年次の県内素材 (丸太) 輸入総量は 97,679^m (対前年 113.4%) で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が 23,957^m (対前年 60.3%)、米材が 73,722^m (対前年 158.7%) であった。

北洋材の内訳をみると、エゾマツが 7,903^m (構成比 33.0%)、カラマツが 7,367^m (構成比 30.8%)、アカマツが 7,222^m (構成比 30.1%)、その他が 1,464^m (構成比 6.1%) となった。



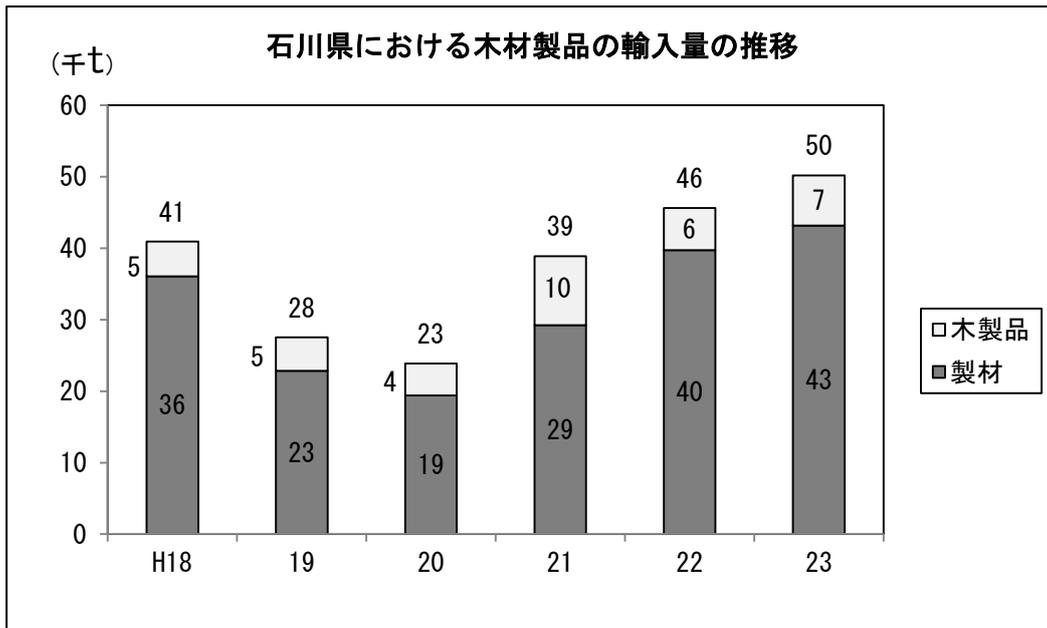
注：平成 20 年次の金沢港における木材輸入量は北洋材 27 m³



(2) 製品

平成 23 年次の県内木材製品の輸入総量は 50,187t(対前年比 110.04%)で、その内訳は製材が 43,162t(対前年比 108.67%)、木製品が 7,025t(対前年比 119.29%)であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

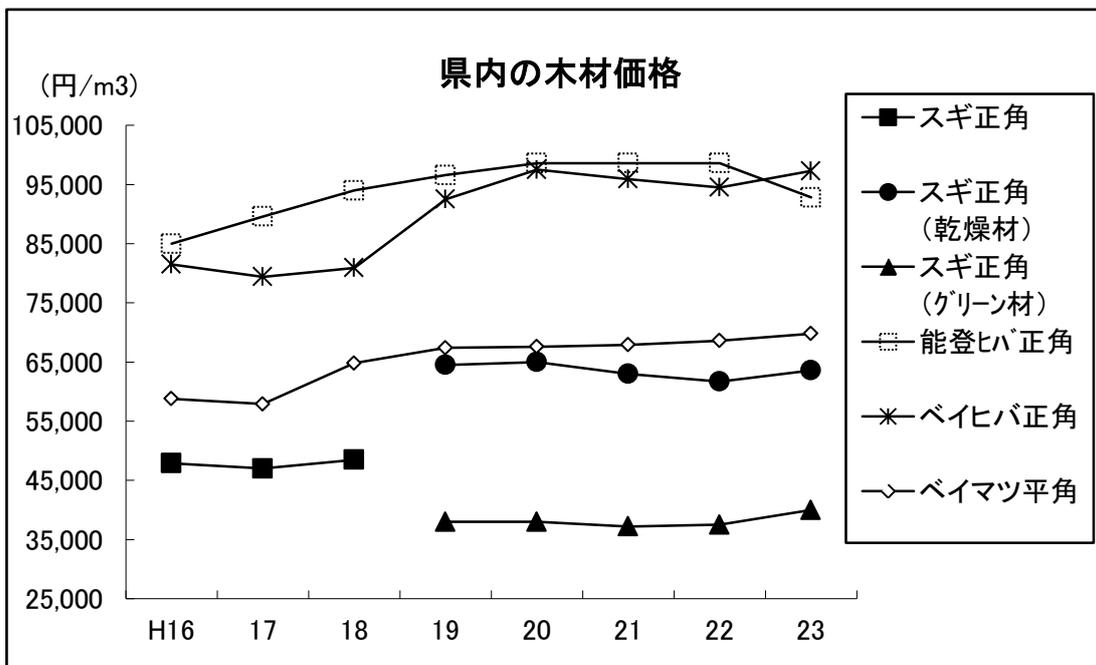


4 木材価格の動向

(1) 製品

○ 能登ヒバ以外の製品価格が上昇

平成 23 年次の県内の木材製品価格は、スギ正角（乾燥材）63,600 円/m³（対前年 1,900 円高）、スギ正角（グリーン材）40,000 円/m³（対前年 2,500 円高）、スギ正割 51,800 円/m³（対前年 2,300 円高）、能登ヒバ正角 92,800 円/m³（対前年 5,800 円安）となり、ベイヒバ正角 97,300 円/m³（対前年 2,800 円高）、ベイマツ平角 69,800 円/m³（対前年 1,200 円高）となった。



平成 19 年 5 月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

(2) 素材(丸太)

○ スギはほぼ横ばい、能登ヒバ・カラマツ・ベイマツは上昇傾向

平成 23 年次の県内の素材価格は、スギ 11,800 円/m³(対前年 100 円安)、能登ヒバ 17,800 円/m³ (対前年 3,600 円高) 北洋カラマツは 19,500 円/m³(対前年 900 円高) ベイマツ 24,600 円/m³(対前年 300 円高)となった。

